

## 第4学年 国語科学習指導案

令和2年10月16日(金)

### 1 単元名 感動したことを詩で表そう

### 2 単元の目標

(1) 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことができる。

[知識及び技能] (1) オ

(2) 書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることができる。 [思考力, 判断力, 表現力等] B (1) オ

(3) 言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。 [学びに向かう力, 人間性等]

### 3 単元で取り上げる言語活動

奥出雲の特産物調べを通して得た感動を詩で表す。

(関連:[思考力, 判断力, 表現力等] B (2) ウ)

### 4 単元について

#### (1) 教材観

本単元の重点指導事項は、学習指導要領における[思考力, 判断力, 表現力等]の「書くこと」(1)に関する指導事項オ「書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。」である。

本単元では、総合的な学習の時間に地元奥出雲の食について学習したことを題材にして、自分が感動したことを詩に表すという課題を設定した。総合的な学習の時間では、「新聞記者になろう」というテーマのもと、児童それぞれが興味をもった奥出雲の特産物(米、和牛、そば、酒、えごま、大根、しいたけ)の見学を行い、その魅力を新聞を通して外部へ発信していくという学習を行っている。新聞づくりの過程で自ら取材をして得た情報や実際に足を運んで体験したことが本単元の詩で表す感動となるため、感動を伝えたいという思いは必然的に強いものとなることが予想される。また、普段なかなか感動の中心を捉えにくい児童も、共通体験をしている友達との伝え合いを通して、感動の中心を明確にしていきやすいと考えられる。

本単元の学習のゴールは、つくった詩を他の市町村の「奥出雲紹介コーナー」に置いてもらうことである。これにより、児童が自分の詩をよりよいものにしたいと思えるだけでなく、相手意識をもち、相手に伝わる言葉を選んだり表現を工夫したりするなど、文章を書く上での大切な力を身に付けることもできている。「奥出雲紹介コーナー」に置いてもらう作品に仕上げるためには、総合的な学習の時間はもちろん、図画工作科との関連も図りながら教科横断的な視点に立って学習を進めていく必要がある。

本単元で扱う「詩」とは、作者の思考や心情が短い語句に凝縮され、精選・吟味された文章である。それゆえに、詩をつくる活動においては、自分の思いについて深く考えたり、一つ一つの言葉を吟味したりすることで言語感覚を磨くことができると考える。

(2) 児童観 ※省略

(3) 指導観

本単元では、奥出雲の特産物調べを通して得た感動から詩に書くことを明確にし、感動を伝える表現の工夫について感想や意見を伝え合う中で、自分の文章のよさを見つけることができるということを目指している。

作者の思考や心情が短い語句に凝縮され、精選・吟味された文章である詩は、本来、他者からの視点で良し悪しを決められるものではない。そのため、本単元では伝え合いを通して感動を伝えるための詩の工夫についてアドバイスは行うが、最終的には自分で決断したり、時間の限り自分なりのよりよい表現を追求し続けたりする姿勢を大切にしたい。

以下、本校の研究仮説に従って進めていく。

#### 1. 課題設定の工夫：主体的に活動できるゴールの設定

本単元では、総合的な学習の時間に奥出雲の特産物調べをして得た感動を詩で表し、それを他の市町村の「奥出雲紹介コーナー」に置いてもらうということを学習のゴールとして設定する。

導入では、総合的な学習の時間に奥出雲の特産物調べをした際の写真を用意し、取材を行った様子やそこで得た感動を詳しく想起させることで、自分が感動したことを色々な人に知ってもらいたいという思いを引き出せるようにしたい。そして、感動を伝える詩を書くためには何が必要か、どのようにすればそれを獲得していけるのかを児童自身にしっかりと考えさせたい。

詩を通して感動を明確に伝えるために必要な材料を集める際には、総合的な学習の時間との関連を図りながら学習を進める。必要であれば追加取材も行うことで、誰もが詩を書くために十分な材料を集められ、意欲的に活動に取り組めるようにしたい。

完成した詩は、図画工作科の学習で絵入りの作品にして他の市町村の「奥出雲紹介コーナー」に置いてもらう前に、校内の学習発表会で紹介することも考えている。地元の方や保護者にも見てもらえる機会を設けることで、明確に相手意識をもてるようにしたい。

#### 2. 学習過程の工夫：学校図書館の利用

詩を書く際には、感動がより相手に伝わるように詩の工夫を取り入れる。しかし、詩を書く経験がほとんどない児童には詩における工夫というのはイメージがもちにくいと考えられる。そこで、様々な詩集を並行読書として読む中で感動が伝わる詩を集めておく。そして、感動を伝える詩の工夫にたくさん触れる中で使えそうな言葉や真似してみたい表現を参考にしながら詩の工夫を考えていくようにさせる。詩集の中の感動が伝わる詩のページには付箋を付け、どの表現に感動を覚えたのか、その理由は何かを書き込むようにさせることで、後から見てもどこが参考にできる部分かが分かりやすいようにしたい。それをもとに、それぞれの児童が自分の伝えたい感動に合った表現の工夫を選ぶことができると期待したい。詩集から感動が伝わる詩を集める際には、語彙からのアプローチや比喩・反復法・体言止め・倒置法といった詩の技法からのアプローチ、中心となる語や文・表記（ひらがなのみなど）・音数（七五調、五七調など）・連など詩の印象を決める上で大切になってくるものからのアプローチといった視点をもって集めさせる必要がある。これまでに学習してきた詩や本校の

「今月の詩」、教師作の表現の例をもとに、それらの表現方法とその効果について確認し、掲示物としても残しておくようにすることで、並行読書をしながら各自で感動が伝わる詩を集める際の一助となるようにしたい。

詩を改良したり、推敲したりする段階では、書こうとしていることが相手に明確に伝わる文章になっているか、再度一つ一つの言葉を吟味するように促す。その際には、児童一人一人に類語辞典を用意し、学校司書や司書教諭の協力のもと活用するためのスキルにおいても細やかに指導できるようにしたい。

本校では今年度より図書館活用教育に関するルーブリックを活用している。本単元でも、児童が観点を意識して自己評価できるようにルーブリックを使用する。

### 3. 伝え合う場の工夫：伝え合う視点の明確化

これまでの児童の実態から、伝え合いには意欲的に取り組むが表面的な感想やアドバイスに終始し、それぞれが自分の文章のよさを実感するまでには至らないことが予想される。そこで、本単元では伝え合う視点を明確にして、早い段階から伝え合いを取り入れる。伝え合う視点としては、①一番伝えたいこと（感動の中心）が明確に表現されているか、②感動した内容をどのような工夫で表現したか、③その表現が十分に伝わるものになっているかを設定する。これにより、相手に伝わる詩の工夫になっているかを早い段階で確認できたり、詩を改良していくのに必要なアドバイスがもらえたりすることでよりよい表現に近づいていけると考える。視点を明確にした伝え合いを単元を通して繰り返し行っていくことで、最終的には相手に感動を伝える工夫が効果的に入った詩となり、自分自身でも自分の文章のよさを実感できるようになるのではないかと考える。

本時は、これまでに集めてきた詩を書くための材料や感動を伝えるための工夫をもとに詩を書いていく活動を行う。

詩を書いていく際には、思考を促す工夫を加えたワークシートを活用し、まず詩に使おうと思っている言葉や表現を書き出させる。次に、それらをどのような順番で並べるか確認し、大まかな詩のレイアウトを決めてから詩を書くようにさせる。児童は、並行読書を通して詩集から感動が伝わる詩を集めてきているため、詩を書く時にはその中のいずれかの詩の表現をベースにしながら詩を書いていくことが予想される。詩を書き出しにくい児童にも、詩集の詩をベースに、使われている技法や印象的な表現と一緒に確認して書いていくという支援をしていきたい。

工夫の伝え合いは、様々なアドバイスがもらえるようにグループで行う。伝え合う視点を明確にすることで、相手に伝わる詩の工夫になっているかを確認できたり、詩を改良していくのに必要なアドバイスをもらえたりする活動にしたい。伝え合いの活動は、それぞれが詩を書き終える前のところで行うようにする。詩が完成する前に一度立ち止まって自分の表現を確かめることで、よりよい表現に近づいていけるようにしたい。

全体で共有する際には、感動がよく伝わる児童の詩（部分的な表現）をいくつか取り上げ、全体で感動を伝える工夫を確認することで、今後、自分の詩をさらによくするための手掛かりとなるようにする。

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使っている。	「書くこと」において、書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けている。	進んで文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけ、今までの学習を生かして詩を作ろうとしている。

6 単元の指導計画と評価計画（全6時間 本時3/6）

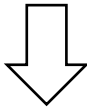
次	時	学 習 活 動	指導上の留意点 (・担任 ◆学校司書)	評価規準 (評価 の観点・方法)
一	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習課題を確認する。</li> <li>・総合的な学習の時間に調べている「奥出雲の特産物」を題材に、自分が感動したことを詩で表す。</li> <li>○詩で伝えたい感動を明確にする。</li> <li>・詩で伝えたい感動を決める。</li> <li>・伝えたい感動を具体的に示す。</li> <li>・詩で一番伝えたいこと（感動の中心）とそれを支える情報を決める。</li> <li>○学習の見通しを立てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・完成した詩は、他の市町村の「奥出雲紹介コーナー」に置いてもらうことを伝え、活動に意欲的に取り組めるようにする。</li> <li>・見学の写真を用意し、見学の様子を想起しやすいようにする。</li> <li>イメージマップを活用し、伝えたい感動につながる情報を整理したり、情報量を確認したりできるようにする。</li> <li>伝えたい感動がより具体的になるように、共通体験をしている友達との伝え合いの時間を入れる。</li> <li>詩を書くための材料が十分にあるかを確認させ、必要であれば総合的な学習の時間に情報収集を行うよう伝える。</li> </ul>	
二	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○感動が伝わる詩のヒミツを探る。</li> <li>・詩集の中から感動が伝わる詩を見つける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感動を伝える要素を考えさせ、表現の工夫（技法や言葉）に目が向けられるようにする。</li> </ul>	

詩集を並行読書

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・詩の技法を確認する。</li> <li>・言葉の特徴や使い方を確認する。</li> <li>・感動を伝えるための詩の工夫を整理する。</li> </ul> <p>○感動が伝わる詩を集める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・技法や言葉を手掛かりに自分が感動した詩（感動が伝わる表現の工夫）を集める。</li> </ul> <p>3 本時</p> <p>○詩を書く。（1）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の感動が伝わるように表現を工夫して詩を書く。</li> </ul> <p>○工夫を伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感動を伝える工夫についてグループで伝え合い、詩をよりよいものにするためのアドバイスをし合う。</li> </ul>	<p>詩集を並行読書 ↓ 感動が伝わる詩を集める（技法や言葉の確認）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・既習の詩や教師作の表現の例をもとに、詩の技法やその効果について確認するようにする。</li> <li>・詩の中の印象的な言葉について、その同義語を紹介することで、同じような意味の言葉でも受け取る印象が変わることがあるということに気付かせ、言葉にこだわるきっかけにしたい。</li> <li>・第2時の学習を踏まえて、どのような表現の工夫をすると感動がよく伝わるかを自分の感覚で整理させる。</li> <li>・感動が伝わる表現にはサイドラインを引かせるようにする。</li> <li>・集めた詩を参考にしながら自分の詩を書いていくことを伝え、詩を集める必然性をもたせたい。</li> <li>・学習のゴールを確認し相手意識をもたせることで、相手に伝わる言葉を選んだり表現を工夫したりできるようにする。</li> <li>・並行読書をして集めた感動が伝わる詩（感動が伝わる表現）を参考にしながら詩を書くように伝える。</li> <li>・一番伝えたいこと（感動の中心）が明確に表現されているか、感動した内容をどのような工夫で表現したか、また、その表現が十分に伝わるものになっているかといった視点で伝え合いをさせる。</li> <li>・詩を書き終える前のところで伝え合いを行うことで、工夫が相手に伝わるかどうかを早い段階で確認したり、困っている児童は相談したりできるようにしたい。</li> </ul>	<p><b>【知識・技能】</b> 詩集への書き込み ワークシート</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・技法や言葉に着目しながら感動を伝えるための詩の工夫を見つけ、それらを使って詩を書いているかの確認</li> </ul> <p><b>【思考・判断・表現】</b> ワークシート</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感動が相手に伝わるように技法や言葉を工夫したり、工夫を伝え合うことで自分の文章のよさを見つけたり、見直したりしているかの確認</li> </ul>
--	---	---	---

	<p>○共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感動が伝わる工夫について全体で確認する。</li> </ul> <p>4 ○詩を書く。(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアでの伝え合いや友達の詩を参考にしながら、自分の詩の続きを書いたり改良したりする。</li> </ul> <p>5 ○詩を推敲する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感動がより強く伝わるように、細部の表現までこだわって詩を完成させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感動がよく伝わる児童の詩(部分的な表現)をいくつか取り上げ、全体で感動を伝える工夫を確認することで、自分の詩をさらによくするための手掛かりとする。</li> <li>・異なる見学先の友達とペアを組むことで、共通体験をしていない相手に感動が伝わるように、細部の表現にまでこだわって詩の改良ができるようにする。</li> <li>・言葉を見直す際には、類語辞典を活用させ、わずかな意味の違いに目を向けながら言葉を吟味できるようにする。</li> <li>・感動を相手に伝えるために、自分が詩の中でこだわって工夫した部分を必ずもてるようにすることを伝える。</li> </ul>	
三	<p>6 ○完成した詩を交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の詩の感動が伝わる部分を見つける。</li> </ul> <p>○詩を通して自分の感動を伝えられたかについて振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お互いの詩の感動が伝わる部分に着目し、どのような言葉や表現がそのように感じさせたのかについて感想を交流させる。</li> <li>・グループで交流した後、グループのおすすめの詩は全体でも交流するようにする。</li> </ul>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p><u>振り返りの記述</u></p> <p><u>ルーブリック</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・詩を通して自分の感動を伝えられたかや自分の詩のよさについて振り返っているかの確認</li> </ul> </div>
課外	○他の市町村の「奥出雲紹介コーナー」に置いてもらう。		

感動したことを詩で表そう ～奥出雲の食～



国語（9月上旬）  
 「たしかめながら話を聞こう」  
 ・聞きたいことを中心に考えて聞く。  
 ・話を聞いて質問する。  
 ・後から見て分かるようにメモを取る。

国語（9月中旬～下旬）  
 「お願いやお礼の手紙を書こう」  
 ・相手や目的を考えて手紙を書く。

国語（10月中旬）  
 「感動したことを詩で表そう」  
 ・奥出雲の特産物調べを通して得た感動を詩で表す。

国語（10月中旬～下旬）  
 「みんなで新聞を作ろう」  
 ・新聞の書き方を学ぶ

図工（10月下旬）  
 「ポエムカードをつくろう」  
 ・国語科でつくった詩を清書する。  
 ・イラストをつけて作品として仕上げる。

総合的な学習の時間（1～3学期）  
**「新聞記者になろう ～奥出雲の食～」**

☆奥出雲の食の魅力を伝えよう

①奥出雲の特産物について知ろう

【つかむ】

- ・保護者や地域の方にインタビューをして、奥出雲の特産物にはどんなものがあるのかを聞く。
- ・地元の特産市や食堂の見学を通して、自分が詳しく調べてみたい特産物を決める。

②奥出雲の特産物の魅力を発信しよう

【調べる】

○調べる特産物…米、和牛、そば、酒、えごま、大根、しいたけ

- ・本やインターネットを使って、一般的な成育方法などについて調べる。
- ・奥出雲の特産物の生産者の方へ取材を行い、育て方の工夫や生産者の方の思い、歴史などについて調べる。
- ・追加取材として役場の方から話を聞く。

【まとめる】

- ・新聞教室で新聞の作り方を学ぶ。
- ・奥出雲の特産物の魅力が伝わるように新聞にまとめる。

【伝える】

- ・学習発表会で奥出雲の特産物の魅力を発信する。
- ・感動したことを詩で表し、他の市町村の「奥出雲紹介コーナー」に置いてもらう。

☆奥出雲の食の歴史について学ぼう

- ・炭焼き体験
- ・循環型農業（牛・米・たたら）

8 本時の学習

(1) 目標

○感動が相手に伝わるように表現を工夫し、工夫を伝え合うことで自分の文章のよさを見つけた  
り、見直したりできる。 [思考力, 判断力, 表現力等]

(2) 展開 (3/6時間)

時	学習活動と予想される児童の反応	指導上の留意点 (・) と支援 (◎)
	<p>1 前時の学習をふり返り、本時のめあてと学習の流れを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">           1 学習のめあて            2 詩を書く            3 工夫を伝え合う            4 アドバイスを生かして詩を書く            5 全体で共有する            6 ふり返り         </div>	<p>◎学習のゴールを再確認することで、奥出雲の特産物について感動したことを色々な人に知ってもらいたいという思いを引き出し、本時のめあてにつなげられるようにする。</p>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">             めあて 感動が相手に伝わるように、よりよい表現を考えよう。           </div>	
	<p>2 前時で考えた言葉や表現を使って詩を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感動をより伝えるために反復法を使おう。</li> <li>・詩集の中の詩を真似して、2連の詩を書こう。</li> <li>・「おいしい」以外の言葉を使った方が、感動するくらいのおいしさが相手に伝わるような気がする。</li> <li>・どの技法を使おうかな。</li> </ul> <p>3 工夫を伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「生まれて1週間経った子牛は、人がお世話をしている」ということを、倒置法と体言止めを使って「人がお世話をしている、生まれて1週間経った子牛」と表現したよ。</li> <li>・倒置法や体言止めを使うよりも、「お世話」という言葉を別の言葉にしたり、なぜそのエピソードに感動したのかが分かる言葉を入れたりした方が感動が伝わると思うよ。</li> <li>・しいたけの大きさに感動したことは、「大きい」という言葉を繰り返せば伝わるかな。</li> <li>・いろいろな技法を試してみれば、どれが一番伝わるかを比べられると思うよ。</li> </ul>	<p>◎思考を促す工夫を加えたワークシートを準備する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・並行読書をして集めた感動が伝わる詩(感動が伝わる表現)を参考にしながら、自分の伝えたい感動がよりよく伝わる技法や言葉を吟味しながら詩を書くように伝える。</li> <li>・詩の技法やその効果について確認できるように、既習の詩や教師作の表現の例を提示する。</li> </ul> <p>・グループによる伝え合いを行うことで、様々なアドバイスがもらえるようにする。</p> <p>◎一番伝えたいこと(感動の中心)が明確に表現されているか、感動した内容をどのような工夫で表現したか、また、その表現が十分に伝わるものになっているかといった視点で伝え合いをさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・工夫が相手に伝わるかどうかを早い段階で確認したり、困っている児童は相談したりできるように、詩を書き終える前のところで伝え合いを入れる。</li> </ul>



<p>4 アドバイスを生かして詩を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感動が伝わるように、もう少し言葉を付け加えてみよう。</li> <li>・繰り返ししか使っていなかったけれど、他の技法も試してみようかな。</li> </ul> <p>5 全体で共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・〇〇さんは反復法を使っていて、その部分の感動が強くて伝わってくる。</li> <li>・「汗水たらし」という言葉が何かいい感じがする。</li> <li>・自分の詩の「がんばる」という言葉をほかの言葉に変えてみようかな。</li> </ul> <p>6 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が感動したことを工夫して伝えることができてうれしかった。</li> <li>・友達にアドバイスをもらって反復法を使ってみたら、最初よりも感動が伝わる詩になった。</li> </ul>	<p><b>【思考・判断・表現】ワークシート</b></p> <p>感動が相手に伝わるように技法や言葉を工夫したり、工夫を伝え合うことで自分の文章のよさを見つけたり、見直したりしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感動がよく伝わる児童の詩（部分的な表現）をいくつか取り上げ、全体で感動を伝える工夫を確認することで、自分の詩をさらによくするための手掛かりとする。</li> </ul> <p>◎感動を伝える工夫に気付けるように、詩にする前の文章と比較しながら提示する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どのような表現の工夫をしたら感動が相手に伝わったか、また、友達との伝え合いをしたことはどうだったかという視点で振り返る。</li> </ul>
---	--

### (3) 本時の評価

十分満足できると判断される状況	概ね満足できると判断される状況	支援を要する状況への手立て
<p>○感動が相手に伝わるように様々な技法や言葉を試しながら工夫したり、相手の伝えたいことを読み取って適切にアドバイスしたりしている。</p>	<p>○伝え合ったことをもとに自分の文章を振り返り、表現を確かめたり見直したりしながらワークシートに記入している。</p> <p>☆工夫している技法や言葉以外の表現方法を紹介する。</p>	<p>○感動した詩に使われている技法や印象的な表現と一緒に確認し、真似をしながら書くことができるようにする。</p> <p>○グループの相手の意見を簡潔に伝え、それについてどうしたいのかを確認し、解決策と一緒に考えるようにする。</p>

### (4) 研究の視点

○伝え合いの視点を明確にしたことは、言葉にこだわりをもち、自分の文章をよりよい表現にしていくなかで有効であったか。

<伝え合いの視点>

1. 一番伝えたいこと（感動の中心）が明確に表現されているか。
2. 感動した内容をどのような工夫で表現したか。
3. 工夫した表現が十分に伝わるものになっているか。

9 研究協議の概要

参加者	校内 15 名、校外 20 名 計 35 名
授業及び研究協議の概要	<p>〈授業の概要〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 単元名「感動したことを詩で表そう」の全6時間中の3時間目が本時である。この単元は図工、総合的な学習の時間との教科横断的なカリキュラム編成で取り組むこととした。総合的な学習の時間の単元名は「新聞記者になろう～奥出雲の食～」である。</li> <li>・ 総合的な学習の時間ではすでに先行して学習に入っており、奥出雲の食について各自調べ学習を行った状態で国語科の本単元に入った。</li> <li>・ 国語科1時間目は、総合的な学習の時間に調べている「奥出雲の特産物」を題材に、自分が感動したことを詩で表すという単元の学習を確認した。2時間目には、感動が伝わる詩の秘訣について考え、さらに並行読書で見つけた詩集の中から感動が伝わる詩とその技法を見つけた。3時間目の本時では自分の感動が伝わるように表現を工夫して詩を書いた。書いた詩を基に工夫をグループで伝え合い、より良いものにするためのアドバイスをし合った。4時間目には、アドバイスを基に詩を書き、改良を加えていった。5時間目には詩を推敲し、完成させた。6時間目では完成した詩を交流した。</li> <li>・ 単元後には子どもたちの作品を松江市の大型ショッピングモール内、「奥出雲名産：もりもり奥出雲コーナー」に掲示して発信した。</li> <li>・ 単元の目標は「様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことができる。(知識及び技能)」「書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることができる。(思考力、判断力、表現力等)」「言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)」と設定した。</li> </ul> <p>〈協議〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 総合的な学習の時間に奥出雲の特産物調べをして得た感動を詩で表し、それを他の市町村の「奥出雲紹介コーナー」(多くの児童が訪れた経験のある松江市の大型ショッピングモール)に置いてもらうという単元のゴールが、児童の強いモチベーションに繋がっていた。</li> <li>・ 総合的な学習の時間や図工との教科横断的なカリキュラムマネジメントも効いていた。時数の十分な確保のみならず、総合的な学習の時間で得た体験を詩にすることができるという、詩を作成するにあたって大切になる「強い感動」というベースが既にあるという点は大きな効果であった。</li> <li>・ 総合的な学習の時間に、調べ学習として調べたことから強い感動を見つけ、そこに特化して詩を書くのは流れとしてはよいが、伝えたいことが詩になりにくい場合もある。その場合の支援が必要となる。</li> <li>・ 詩を書く際には、様々な詩集を並行読書として読む中で感動が伝わる詩を集めて、その中から見えそうな技法や真似してみたい表現を参考にしながら詩の工夫を考えたという流</li> </ul>

れはとても良かった。児童はいくつかの詩のモデルを参考にして自分でも詩を書いていた。擬人法や倒置、比喩などの技法を児童なりに理解し、全員が自分の詩に取り入れようとしていた。

- 単元を通した伝え合いはいくつかの視点（一番伝えたいこと（感動の中心）が明確に表現されているか、感動した内容をどのような工夫で表現しているか、その表現が十分に伝わるものになっているか等）があり、視点を意識できるように付箋を利用した。付箋の使い方（色分け）については難しさもあるが、児童の思考を可視化したり、整理したりするという点で有効であった。